

優秀賞

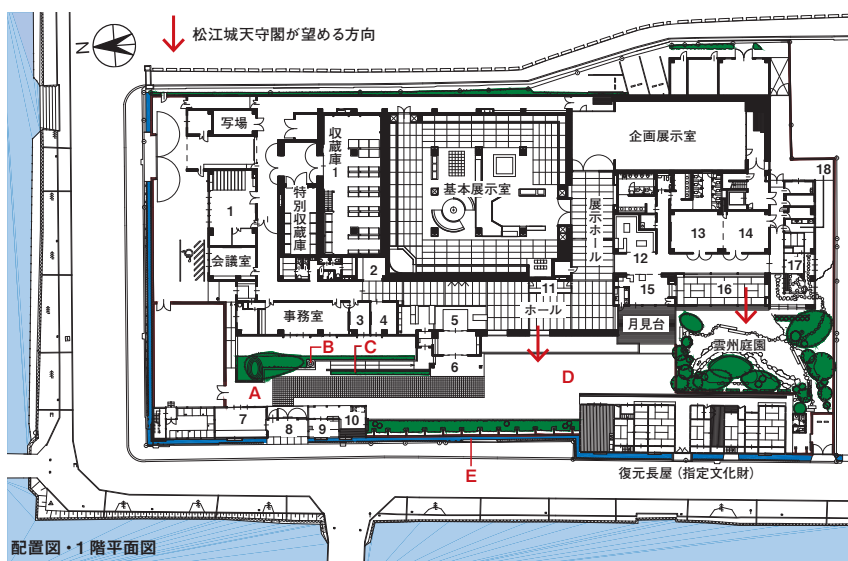
文化施設
(中国地区)

松江歴史館



ホール内観

西側外観



所在地	島根県松江市殿町 279
敷地面積 (m ²)	5,439.92
建築面積 (m ²)	3,287.50
延床面積 (m ²)	3,918.30
構造/階数	RC 造、一部 S 造、W 造/地上 2 階
事業者	松江市
設計者	(有)環境計画建築研究所
施工者	松江土建・幸陽建設・一畑工業 JV
竣工年月	2010 (平成 22) 年 10 月
総工事費	1,702 百万円

- A 下り松 (設計者が探し設置)
 B 石灯籠 (写し。設計者が探し設置)
 C 茶の木寄せ植え
 D 暮らしの庭: 主として江戸時代の城下で行われていた行事や、暮らし・遊びなどを体験する庭
 E 溝 (江戸時代の遺構)

- 1 調査研究室 2 ライブラリ 3 館長室 4 ボランティア室
 5 玄関 6 ポーチ 1 7 祭具展示室 8 長屋門 9 観光案内所
 10 休憩所 11 受付 12 ショップ 13 歴史の指南所 1 (研修室)
 14 歴史の指南所 2 (研修室) 15 喫茶
 16 暮らしの指南所 (大広間) 17 茶室展示室 18 水屋

松江城の堀割に面した城下町の伝統が色濃く残る敷地に建てられた展示、集会複合施設である。

木造と瓦葺きの伝統的な日本建築に見える外観は、歴史的な意匠の考証的な探求によって、鉄筋コンクリートであるにもかかわらず伝統的な街並みの雰囲気を再生している。特に屋根構成の巧みな構成とそのデザインによって、伝統的な街並みの中では大きな建物を違和感なく成立させ、新築にもかかわらず、昔からこの建物がこの場所に建っていたかのように思えるほど、街に調和した存在となっている。これは、鉄筋コンクリート構造の周囲を、巧みな木造の軸組構造としていることによって、伝統的な日本建築としてのスケール感と意匠を成立させていることによるものだろう。

観光資源としてこれからも多くの人々を集める施設として機能すると思われるが、それ以上に、伝統的な日本の街並みを再構築する優れた解法として、伝統建築の再現が示された建物といえるだろう。

国宝松江城の見える博物館

松江市は、古代出雲の中心地として早くから開け、奈良時代には国庁や国分寺が置かれていました。約 400 年前に松江城が築城され、それ以降城下町としての歴史もあります。

当館は、国宝松江城の東側に隣接しており、武家屋敷風の外観をもつ建物で「お城の見える博物館」として、開館より 6 年目を迎えています。

当館の使命は、貴重な歴史資料の収集・保存、調査・研究、そして展示をとおして広く松江の歴史や文化を伝えていくことです。

当館のような役割は、地方創生の観点からも、なくてはならない存在です。

(花形泰道・松江歴史館事務局長)